

## 令和2年度 美術科 授業改善推進プラン

### ①現状・観点別分析

#### 生徒による授業評価の分析

授業の目標や流れを理解している生徒は1年87%、2年95%、3年94%であった。「関心・意欲が向上した」と感じている生徒は、1年76%、2年92%、3年89%であった。技能の高まりを感じている生徒は1年75%、2年91%、3年91%であった。昨年度、関心は2年が84%、3年が70%で、技能は2年が85%、3年が80%であったことから、全体的なレベルアップが感じられる。一方、考えの深まりを感じた生徒は1年が68%で、他と比べ低い。

#### 観点別評価の分析

1年は、観点1（関心・意欲・態度）、観点2（発想や構想の能力）、観点3（創造的な技能）それぞれ、A評価が、48%、41%、37%と比較的高い。一方で、観点4（鑑賞の能力）は9%と低い。定期考査の結果が影響していると思われる。2・3年は、観点1はA評価が多く、観点2が20%弱とA評価が少なくなっている。

### ②課題

#### 生徒による授業評価の分析より

話し合い活動等の考えを深める活動の場の設定に課題がある。

#### 観点別評価の分析より

学習した内容を生かし、制作に結びつける意識の向上が必要と考える。

構想を練り、見通しをもって制作する力の向上が必要と考える。

### ③具体的な改善策（「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善）

#### 発想や構想の能力の向上

昨年の反省を受け、構想を立てるためのワークシートを改善しているが、引き続き改善に努める。また、事例、作例の提示をし、発想の幅が広がるように支援するとともに、生徒間の意見交流の場も設定していく。

#### 自分の考えを深める場の設定

アイディアスケッチの段階、鑑賞の時などに考える時間を設定する。

#### 美術の制作活動は、基本的に主体的な活動そのものである。ただし、そこには制作に対する意欲が結び付くものである。意欲が高まるよう、題材、授業導入、展開を工夫する。